

<b>教育理念・目標</b>	日本国憲法が定める基本的人権を尊重し、平和で民主的な社会の形成に資する主権者を育てる。 法政大学の校風として育まれた「自由と進歩」を体現する主体的で創造的な人間を育てる。 豊かな知性と教養、健康な心と身体、思考力と判断力を有する人間を育てる。
----------------	---

<b>重点目標</b>	～チームワークと学び合い～ ①命と人権を重視し、保護者とも連携して生徒と真摯に向き合いながら生徒の成長をサポートする。 ②生徒の状況を全体で組織的に把握し、生徒を中心に据えた活動が展開できるように努める。 ③業務削減を試みて長時間労働を廃し、働き方の改善を促進させることで、教員が精神的ゆとりをもちながら、より豊かな教育活動を展開できる持続可能な環境を実現させていく。 ④チームワークによる教育力向上をめざし、教員会議に結集し共通認識をつくる。 ⑤各分掌が原案を作成することを基本とする。円滑な学校運営の実現のため各々が全体状況を見据え、各担当部分をコントロールし、持続可能で民主的な学校運営を目指す。 ⑥12 支部や私中高協、法政大学や法政他付属校とも連携しながら、各分掌と力を合わせ、感染の予防策や教育活動に工夫を凝らし、場合によっては新型コロナウイルス対策本部を招集し、生徒が自律的に活動していけるよう、教員集団の英知を結集して乗り越えていきたい。
-------------	---

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2023年12月15日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	<b>建学の精神</b> (建学の精神や理念の理解と意識化)	法政大学憲章を学ぶための付属校生向け教材『学びのつながり』を HR で活用した。高校 2 年生対象に自由を生き抜く実践知を体現している卒業生講演会を行った(水中考古学者 山船晃太郎氏)。				・社会経験がないと「自由を生き抜く」という意味が体験としてよく分からないかもしれないですが、生徒同士のディスカッションやエーリッヒ・フロムの「自由からの逃走」を読んで理解を深めてもらうのはいかがでしょうか。
2	<b>組織運営</b>	1. コンプライアンス ・内外の教育および社会問題を学び、教育的な指導の実現を目的に研修(部活動指導や個人情報研修等)を計画的に行い、ハラスメントのない学校・職場を目指した。 ・以下の研修を行った。 【7月教研】7月21日(木) ①中高の入試査定における「男女比1:1問題」②「朝 HR のあり方について」③「スマホルールと本校の生活指導」をテーマに意見を出し合い、今後の方向性を確認する土台となるような機会にした。 【12月教研】12月21日(水) 報告①「本校の部活動に関する生徒および教員アンケートの結果」②「本校の部活指導者の現状について」と討議①生徒の視点から考える本校の部活動 ②教員の視点から見た本校の部活動を軸に議論を深めた。午後は「部活の完全外注への取り組み」聖学院中学校・高等学校総務統括部長 日野田 昌士先生の講演と質疑を中心に進め、まとめとして本校でのクラブ活動について話し合った。部活が居場所として大事なものであることを共通認識として持ち、一方で、顧問体制・事故時の責任問題・外注など課題として検討した。 ・3/18 情報セキュリティ研修を実施。 2. コロナ対応 感染状況に対応しつつ、必要に応じて大学法人、三付属校、12 支部、私中高協などと連携・情報共有し、ウィズコロナの実践を積み重ねた。感染拡大防止の観点から、規模縮小などの判断を持ち生徒、保護者、教職員にとっても安心安全な活動が保障されるように教育活動を展開した。文部科学省および東京都教育委員会の指針、他校の対応を参考にしつつ、具体的な活動については本校の状況に応じて決定した。 ①感染者が発生した場合の対応について 厚生労働省の通知をもとに、出席停止基準や濃厚接触者の出席停止期間などを随時変更した。感染者が発生した場合の対応は、「新型コロナウイルスに関する衛生管理ガイドライン」に則って実施した。フェアキャストの送信権限を教員全員に付与したことにより、より迅速な対応を取ることができた。学級閉鎖・学年閉鎖の判断については、文部科学省の通知や他校の動向を参考にしながら決定した。2022 年度学級閉鎖(新型コロナに限る)があったのは9月に5クラス、10月と11月に1クラスずつであった。 ②授業 感染対策を講じながら各教科で授業実践をした。コロナ関連の欠席者への対応については、年度初めにまとめて示したことから、大きな混乱なく進めることができた。 ③学校行事 2023 年度の宿泊行事については、2022 年度中に実施時期や形態を決定した。2021 年度実践を踏まえ、宿泊参加同意書や新型コロナウイルス感染疑い発生時の対応マニュアルを作成し、事前の PCR 検査および宿泊行事後の自宅待機期間を設けた上で実施した。宿泊期間中の発熱や怪我など数件あったが、無事宿泊行事を行うことができた。2 学期より体育館やオレンジホールなどの施設の利用上限人数を緩和し				・以前起用している業者殿が生徒の個人情報や宗教関係の団体に横流ししていた事件があったと記憶しています。学校内部のコンプライアンスはしっかりしていると思いますが、対外的な、特に業者選定のプロセスは確立しているのでしょうか? →選定方法を見直して適正化を図りました。 ・その他の点は存じ上げない部分も多いのでなんとも言えませんが、次年度重点課題における教育の質を上げるためにどのようなことを行っているのかが具体的にわかればありがたいです。 →例えば、福井大学連合大学院の支援のもと生徒の看取り重視の授業研究を始めました。(2023 年度) ・そもそも教育の結果として何を目指しているか(英語教育による国際化、プログラミングに親しんで IT に強くなる、古典に理解を深めて教養を身に着ける、等)その為に必要な人材や設備、予算は整っているのか(例えばプログラムに重心を置くのであれば教えられる教員がいるのか、等) ・部活動に関しては、以前よりも休みが増えたが実績が残せたとし、それに伴い先生方は少し負担も減ってお休みが取れたのではないかと思います。顧問の先生との信頼関係を学校生活にも生かそうと、すべてを外注にするより学校の先生や卒業生のコーチで活動できる事を望んでいます。体罰や言葉の暴力などもなく安心してお任せしています。 ・コロナ対応は特に問題ないかと思いません。鈴掛祭の後にコロナ・インフルエンザに罹った生徒が増えてしまったようで

		<p>た。</p> <p>④部活動合宿 年度初めに宿泊行事と部活動合宿に関するガイドラインを策定し、それに則って実施した。学年の宿泊行事と同様に、実施前にPCR 検査（春合宿については抗原検査も可）をして陰性が確認された場合のみ参加可としたが、それぞれの合宿時期が異なるため、東京都で一括検査を申し込むことができず、個人で検査をしてもらうこととなった。合宿直前の7月下旬は全国的な感染拡大によりPCR 検査場が非常に混雑しており、予約できなかつたり、3日以内に検査結果が出なかつたりする事案が発生した。合宿をきっかけに感染が広がった部もあったが、自宅待機期間を3日設けたことにより、部以外への感染拡大は極力避けることができた。</p> <p>⑤生徒会行事 「適切な感染防止策を十分講じた上で実施」を原則に検討・実施した。</p> <p>⑥式典、保護者会等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・始・終業式は2学期末から対面実施。それまでは、放送とZoomを使った形式で行ってきた。入学式・卒業式は、内容の精選をはかり進めることができた。卒業式には校歌斉唱も再開することができた。状況を見据えて式次第や内容の判断を行う。</li> <li>・年度当初の保護者会は学年・クラス共に対面で行ない、それ以外は感染状況等をふまえて判断するという可能性は残しつつ、ハイフレックス開催で実施（但し、クラスPTAは対面のみ）とした。3学期は、基本的に対面開催とした。</li> <li>・卒業を祝う会は食事を挟まず、短時間で開催することとした。</li> </ul> <p>3. 持続可能な運営</p> <p>①5年後の構想検討委員会を設置し、本校で大事にしたいものの優先順位をつける取り組みが始まった。ねらいは、経験の深い方も浅い方も意見を出しやすくオープンな形で議論するためである。教員自身の働き方や慣習を問い直し具体的に可能なところから変えなくてはならない。コロナ禍を経て生徒の生活のあり方が見直されるようになった。中長期視点で世代交代を含めてゆとりを生み出す働き方にし、自己研鑽の時間を確保し付属校としての教育内容を創りたい。②入試当日の業務区分化をさらに進め、効果よくかつ安全に遂行した。</p> <p>4. 組織検討</p> <p>2023年度は、意志決定プロセスの見直し、組織機構・人事委員会制度を検討予定。</p> <p>5. 次年度重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間管理が運用され、限られた時間の中で、教育の質を上げるためどのように教育活動を展開するか、限られた時間の中で熟議し、活発な討議と明確な意思決定をいかに行うか、関係部署と検討する。</li> <li>・予算について、経常費、法人予算、預り金など使い方も含め学び合う場をつくる。</li> </ul>	<p>すが、ある意味生徒たちの思い出とのトレードオフであり仕方なかったのかと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はコロナ前にはほぼ戻している感じでうれしく思っています。文化祭時期はどうしてもコロナの患者さんが増えましたが、コロナの患者さんが増えても、今までの生徒の努力を無駄にせず、きちんと文化祭を楽しませてくれて、感染者が増える事を見越して休みを増やす、といった対策を考慮してくれたおかげで、子供たちも保護者も満足いく文化祭になったと思っております。</li> <li>ただ、やはり軽症者や出席停止期間、また学級閉鎖になった場合にオンライン授業をできる仕組みを早急に進めていただきたいです。休みの生徒さんがいる授業は可能な限りオンラインで授業に参加できる仕組みを整えていけたら不登校の生徒さんもしかしたらオンラインでの授業なら参加できるかもしれないので。</li> <li>・宿泊行事、部活動合宿に関しても子供達にとっては貴重な経験となるものなので、実施していただいて感謝しております。PCR 検査の問題もあるようですが、色々やっつけていながらその時の状況に応じたベストを探りながら続けていくべきだと思います。</li> <li>・式典に関しては、子供たちがマスクなしで嬉しそうに入場してくる様子が今でも目に浮かびます。最後にマスクなしで同級生と過ごすことができ本当に良かったなと思いました。祝う会は短時間でも楽しい時間を共有出来て保護者も生徒もよかったのではないかと思います。</li> <li>・保護者会については、対面でできるようになったことから、保護者間の交流を持つことができ、良かったと思います。またZoom配信も、感染症等関係なく、これからも実施していただければ、当日都合がつかなくて参加できない時でも、保護者会の内容を聞き逃すこともなく、ありがたいと思います。</li> </ul>
3	<p>教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)</p>	<p>1. 教務</p> <p>①新しい教育課程（高校）の実施 新学習指導要領改訂に伴い、2022年度は新しい高校教育課程の導入年度となった。グループワークや自分で調べたものを発表する場をつくるなど、各教科で工夫して実践した。2023年度から実施となる高2の「総合的な探究の時間」は実施時間や内容等について概ね策定することができた。2024年度から始まる高3の「総合的な探究の時間」については、高2の実践を踏まえながら2023年度中にカリキュラム策定を行いたい。</p> <p>②タブレットPCの導入と今後のICT教育の環境整備について 2022年度の入学生は4月または5月にタブレットPCの配布およびガイダンスを実施し、授業やHRなどでの利用が始まった。教員用機器を各HR教室に1つずつ設置したことや、プロジェクターの設置台数が増えたこともあり、ICTツールを活用した授業などの取り組みがしやすくなった。特徴や特性を十分に理解し、効果的な活用を進めたい。また、現在は、BYAD(Bring Your Assigned Device)という、学校が端末の種類や性能を完全に指定する方式を採用しており、特に管理運用面においてメリットが大きいものの、この方式の是非については検討したい。 2023年度で中高6学年すべてがタブレットPCを持つこととなる。校内のICT環境の整備も含めて業務を整理し適切な部署が担えるような仕組みづくりを目指したい。</p> <p>③今後の英語資格試験の実施について 2022年度の高校入学生より、英語資格試験の内容や実施回数を変更した。また、英検の準会場実施をすべて廃止とした。</p> <p>④各試験の運用 ・公正な試験の実施のために「試験監督実施要項」の改定と、学年通信に掲載する受験上の注意の文言の統一を図った。</p> <p>⑤デジタル採点ソフトの導入 定期試験や入試の採点業務の軽減化および効率化を目的に、デジタル採点ソフト「採点ナビ」を本格的に導入した。デジタル採点をする際の注意事項や取り扱いなどについてルールを設け、運用した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1-①「総合的な探究の時間」の内容が興味深く、生徒の自発性を向上するものと思われる。</li> <li>3-7-②多様性対応と4-1-③について、今後ますます増えてくると予想される。引き続き取り組み、保護者、教員、必要に応じて関係諸機関と連携してほしい。</li> <li>・英検の準会場でなくなったことは残念ですが、働き方改革の一貫とのことで、納得しています。ただし、本試験のスケジュールやCBTで受験することができることなど、周囲に知らない保護者も一定数いたため、案内があるとより良いと思いました。</li> <li>・中学のカナダ語学研修がオンラインとなってしまったため、高校でより広い範囲の生徒が現地での語学研修の機会を得られるようになるとうれしいです。</li> <li>・タブレットPCはもっと積極的に利用してほしいです。まなBOXくらいにしか使っていないように見えます。保護者の立場としては市場価格より高いPCを購入したのに、と不満があります。積極活用の例としては、1.本でなく電子化した教科書を使う。2.授業で使うプリントを電</li> </ul>

	<p><b>⑥国際交流</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校から3名が留学をし、海外から3名の留学生を受け入れた。</li> <li>・高校の新しい語学研修および中学の語学研修については、当初予定していた研修先がコロナ等の影響により休業状態となり催行不可となってしまった。2023年度高校はカナダのビクトリア州に、中学は通学型のオンライン研修を実施するとし、語学研修再開の見通しを立てた。</li> <li>・本校生徒は留学への関心が高いことから短期留学の規定について検討した。短期留学する場合の成績算出方法などについて議論した。</li> </ul> <p><b>⑦教員ガイダンス</b></p> <p>年度当初に新任教員を対象ガイダンス（まなBOXやタブレットPC使い方、PC貸与など）のスケジュールを、例年より早い時期に行ったことにより、余裕をもって整え業務を行うことができた。また、新任専任教員を対象「おはなしカフェ」を実施し、業務上の不安や感想を共有し合う場を作った。</p> <p><b>2. 進路</b></p> <p>中学：中学学年会と連携、高1：適性検査及び法大見学、高2：OBOG進路講演会、高3：法大推薦・併願・他大受験、全学年：進路希望調査において滞りなく実施した。</p> <p><b>3. 図書</b></p> <p>ICT化、総合学習における電子データ利用環境の整備に重点をおいた。</p> <p><b>4. 国際交流</b></p> <p>カナダ語学研修(オンライン)、外務省訪問プログラム、留学生の送り出しと受け入れ、次年度カナダ研修再開、短期留学制度の検討等を行った。</p> <p><b>5. 学事</b></p> <p>教員受持時間割表作成、試験時間割・試験監督表等の作成を滞りなく実施した。</p> <p><b>6. 行事検討</b></p> <p>中学3年間・高校3年間、中高6年間を見通し、宿泊行事の検討が急がれる。</p> <p><b>7. 生活指導</b></p> <p><b>①命の大切さ・人権意識</b></p> <p>7月22日「いのちの日」追悼の集いを行なった。クラブ事故を風化させず教訓化するため、ご家族の意向を尊重しながら、引き続き取り組む。</p> <p><b>②多様性</b></p> <p>傾聴を大切に発達段階に応じた対応を心掛けた。支援体制の一層の充実が求められる。</p> <p><b>③主体性を育む</b></p> <p>2022年度文科省生徒指導提要在改訂され、子どもの権利条約が位置づけられた。今後も校則の見直しなど、生徒の意見表明権を促し、励まし取り組む。</p> <p><b>④宿泊学校行事・部活動合宿</b></p> <p>コロナ禍の制限の下、大過なく実施した。</p> <p><b>⑤部活動</b></p> <p>大きな事故なく部活動を行った。三付属校の部活動検討チームと並行して本校でも2022年度実施の生徒および教員アンケート結果を参考に、生徒にとっても教員にとっても持続可能なものに、可能なところから変え未来志向で討議する。</p> <p><b>⑥いじめ防止対策委員会の開催</b></p> <p>生徒生活アンケートを学期毎計3回、委員会5回開催。ケース会議やミーティングが有効だった。今後も学期ごとに委員会を設定し、生徒に寄り添った丁寧な対応を組織的に行う。</p> <p><b>⑦ネットリテラシー教育</b></p> <p>各学年で生徒向け講座、保護者会での注意喚起を行った。引き続き学習する。</p> <p><b>⑧「学校生活の手引き」の改定</b></p> <p>生徒会執行部の活動により制服に関する校則が改定された。今改定は、生徒自身が校則について考え、学校の規則の見直しに参画したことで、生徒が自主自律の意味を追求する機会となった。スマートフォンは、今年度実施した試行期間の結果を振り返り2023度以降、校則改定やその後の指導方針について検討する。2023年度はタブレットに関するルールについても、合わせて確認したい。</p> <p><b>8. 部活動</b></p> <p>外部委託の事例研究や教研を通じて部活動の今後の方向性について問題意識の共有を行った。安心安全な指導のために、来年度からコーチ懇談会を課外活動指導員も対象とする。5月以降に実施し、新規のコーチおよび課外活動指導員は必ず出席してもらう。継続のコーチ及び指導員には、顧問を通じて内容確認をする。</p> <p><b>9. 次年度重点課題</b></p> <p>教務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*新しい高校教育課程の確実な運用</li> <li>*総合的な探究の時間の実践（高2）とカリキュラム策定（高3）</li> <li>*ICTの整備とタブレットPCの確実な活用</li> <li>*英語資格試験の業務整理と運用組織の検討</li> </ul> <p>生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*性教育を含めた人権教育の充実</li> <li>*登校時の危険回避のための混雑緩和対策</li> <li>*SNS利用に関する生徒への継続的な安全教育</li> </ul>	<p>子化してタブレットを使って授業をする</p> <p>3. 生徒側からタブレット PC を使って生活をどう充実させることができるかのブレゼンをしてもらうなどです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内 WIFI 等を設置して生徒たちに IT で繋がることを感じてもらうことも大切ではないでしょうか。IoT が今後より進んでいく社会ではバーチャルにつながる感覚は必須だと思います。</li> <li>・英語は英検より TOEIC の方が実用的であると思います。就職活動の際にも英検はあまり聞かれた覚えはありません。</li> <li>・国際交流オンライン研修は意味がないと考えておりますので、発表があった時は残念でした。</li> <li>・進路に関して、そろそろ生徒たちの間でも「こういう仕事をしたい」「こういうことに興味がある」というアイデアができてきていると思います。ただ、これらのアイデアが実際のどの学部に行けば勉強できるのかが結びつかないのではないのでしょうか。その為にも学校側から生徒と直接学部相談できる機会を増やしていただければ生徒のやる気アップにもつながると思います。</li> <li>・総合的な探究の時間は抽象的で学ぶのも教えるのも大変なカリキュラムであると思いますが、少しずつ模索しながらやってみて行くしかないのかなと思います。</li> <li>・英検の準会場の廃止は少し残念でした。学校で受けられるから次の級も挑戦させようという気持ちになるのに、学校で受けられないならこの程度取れたからいいかな？と思う保護者も生徒も増えたのではないかと思います。</li> <li>・先生方の業務の軽減につながるならば、よいものは取り入れるべきだと思う。</li> <li>・中学生のオーストラリア語学研修がなくなってしまったので、再開に向けて動いていけるといいのかなと思います。</li> <li>・今の時代教員の方々はいろいろな心配があるので大変だと思います。「おはなしカフェ」の実施はとてもいいと思います。</li> <li>・「いのちの日」は是非今後も続けて頂きたいです。</li> <li>・女子がズボンを履くことはかなり受け入れられているが、まだ男子がスカートを履くことにはふざけているのでは？笑いを取るためではないか？と思ってしまう。本当に心を痛めている男子がスカートを履けるようになるのはまだ先のことなのかもしれないが、本当に苦しんでいる子のためにもふざけて履くのはやめてほしい。</li> <li>・ネットリテラシー教育は子供たちの安全安心のために大事な事だと思います。</li> <li>・登下校のクレームがなかなか減らないのが残念です。</li> </ul>
--	--	--

		<p>*生徒の意見を尊重した校則・生徒会則・専門委員会の見直し</p> <p>*持続可能なクラブ活動形態の追求、及び既存のクラブの再編成</p>	
4	安全・保健管理 (保健、安全、防災、施設等)	<p><b>1. 保健</b></p> <p>①感染症対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室内での感染を予防するため、手指消毒、体温計やペンなどの物品消毒、換気などを行った。</li> <li>・発熱等新型コロナウイルス感染症が疑われる症状を有する場合は、早退を勧めた。休養させる際には、ビニールで覆われた隔離ベッドを使用させた。</li> <li>・文科省の通知に基づき、濃厚接触者の特定（年度途中まで）や閉鎖等の助言を行い、感染拡大防止に努めた。</li> <li>・新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の学校感染症の出席停止期間や書式について随時周知した。（今年度は医療機関の負担軽減のため、インフルエンザ等の学校感染症も医師の証明を不要とした）</li> </ul> <p>②定期健康診断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で削除していた項目（視力・歯科・耳鼻科・内科）を再開した。視力は検査機器の消毒や、飛沫感染予防のために会話を減らすなど工夫した。</li> <li>・心電図や尿検査等、精密検査が必要な生徒には受診勧告を行った。</li> <li>・9月に中高1年生の希望者を対象とした色覚検査を実施した。</li> </ul> <p>③カウンセリング活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お便りを隔月に発行し、開室日やカウンセリングの周知をした。</li> <li>・対面相談に加え、相談者のニーズに応じ Zoom 相談と電話相談を実施した。</li> <li>・メンタル不調に対して必要に応じて関係諸機関と連携した。</li> </ul> <p>④応急処置・病院搬送</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院搬送件数は12件で、内6件は救急車を要請した。</li> <li>・すぐに受診すべきか、救急車を要請すべきか、判断に迷った際には、#7119に相談して対応した。</li> <li>・オンラインで様々な研修会に参加して自己研鑽に努めた。</li> </ul> <p>⑤骨密度検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校医と協力し、全校生徒の希望者を対象に骨密度検査を行った。中学生対象に学校医による講話も実施した。</li> </ul> <p><b>2. 安全・環境・防災</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪天候で延期した1学期を除いて、2学期（グラウンドへ避難）・3学期（メインアリーナへ避難）に対面で避難する訓練を行なうことができた。また、訓練前に避難経路や防災設備の事前学習の時間を設けた。防災備品の確認と、今後の年次で補充していく計画を立てた。</li> <li>・今後の課題：災害が発生した際の地域との協力関係、防災教育研究ほか。</li> </ul> <p><b>3. 施設・設備</b></p> <p>無線 LAN 環境構築・無線 AP 等設置場所を検討し必要な整備を行った。生徒用机の一部天板張替え、調理室、被服室、高校理科室 A の AV 機器一式の取替えを行った。排水設備の点検が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策において、トイレ以外にも手を洗える場所があるとより良いと思います。</li> <li>・悪天候による行事のキャンセルに関しては、確か東京都市部や武蔵野はそこまで荒天ではなかったが、東京都の警報（島嶼部も含んでいたため？）が解除されなかったため行事が中止になってしまった件があったと記憶しています。→島嶼部は除いています。</li> <li>・どの警報を基準にされているか存じませんが、なるべく現実的な判断をお願いしたいです。</li> <li>・部活動でけがをした際も直ぐに対応してくださるので安心して居ります。クラブ事故があったこともあり、ケガなどへの対応は素晴らしいと思います。</li> <li>・登校後のケガや体調不良について、保健室利用の連絡が瞬時にフェアキャストにて詳細連絡が届き、保護者においては勤務中でも状況が分かり、大変安心できるものとなっております。</li> <li>・避難訓練は継続して行うことが、いざという時の備えになるので大事なことだと思います。</li> </ul>
5	連携 (保護者、卒業生、地域等)	<p><b>1. PTA</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に入会について触れ、保護者の自主的な活動であること、それをサポートするという立場から円滑な運営を目指した。入会や組織体制についての課題は、役員会で提起し、今後議論していくことを確認した。</li> <li>・2022度は、12支部の幹事校であったが、定期総会などもPTA役員会の尽力により、前幹事校より引き継ぎを行い、適切に業務を遂行することができた。</li> <li>・1～2学期にかけて要望のあったフォトブックの扱いについて検討し、個人情報保護の観点からフォトブック・写真データの配布等について、基本的に業者写真を活用していく方針を持ち、PTA役員会を通じてPTA運営委員会に、そして学年主任経由で学年への共有を図った。</li> <li>・3部会の会合や諸行事を可能なところは対面で開催するなど、都度実情に合わせて実施した。新年懇親会の再開をはじめ、鎌倉古寺巡り、一日講習と鈴掛祭での作品展示、キャンパスツアーも実施し、学年との連携も図るなど、現在できる最大限の活動ができた。私学助成小中協議会も、近隣校と協力して三鷹市長と直接対話する機会も設けることができた。</li> <li>・卒業を祝う会は短時間で縮小して開催した。</li> </ul> <p><b>2. 卒業生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームカミングデーは2022度中止としたが、今後の隔年開催について、全ての代が参加でき、活気ある会にするため、同窓会と連携し、より良いあり方を探りたい。</li> <li>・2022年度同窓会奨学金が創設された。</li> </ul> <p><b>3. 地域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティまつりの中止により生徒の書道作品の出展ができなかった。</li> </ul> <p><b>4. 次年度重点課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高としてのPTAのあり方、持続可能な活動の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員やPTAより卒業して大学にいるの方が生徒たちには近くてより活きた情報が得られるのではないかと思います。</li> <li>・卒業生と将来の進路や学校生活を語らう場を設けていただければ生徒にとっても励みになるのではないのでしょうか。</li> <li>・年々役員に立候補してくれる方が減っているような気がして残念です。楽しく、そんなに大変なことはしていないことをアピールできたらいいと思います。</li> <li>・中高としての特色を活かしたPTA活動の充実および保護者との連携、持続可能な活動の検討していきたい。</li> <li>・私学のPTAは公立と違い、その学校の特色を分かたうでの入学だと考えております。また、この会費がなくなってしまうと子供たちにどのような影響が起るのか、会費がどのような使い道をされているのか入学式終了後、入学生保護者に向けて話せる場があれば良いと思います。</li> </ul>
6	大学との連携	<p><b>1. 高大連携の取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7/16 ウェルカムフェスタ(高2対象)、大学教員による座談会・アイデンティティ・教育目標を知る(対面およびオンライン)</li> <li>・8/5 多摩キャンパス体験学習プログラム 4学部の魅力を伝える参加型模擬授業</li> <li>・8/9 ワンデーサイエンスカレッジ IN 小金井、実験・実習・講義。理系学部への進学意識の高揚。</li> <li>・8/25～27 イングリッシュキャンプ、英語マインド・国際感覚・チームワーク養成。</li> <li>・総長杯英語プレゼンテーション大会は本校から2組2名が参加、優秀賞受賞。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付属三校合同研修に関して、各校のカラーが違う点を利用して生徒の短期交換などはできないものではないでしょうか。</li> <li>・特に国際の自由さは際立っているようにみえるので、生徒にとっても刺激になると思います。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>法政大学入学後の状況のフィードバック・学力保障の議論がなされた。</li> <li>国際高校「大学の学問にふれる」を録画して頂き高2・3生夏季特別講座の自由選択授業として開講。</li> </ul> <p>※本校独自の高1対象キャンパス見学は従来の形式で実施した。2023年度以降は施設の事情から実施不可のためプログラムの検討が急務である。</p> <p><b>2. 法大推薦について</b></p> <p>滞りなく実施した。毎年5月頃出される「総長文書」を十分確認し、生徒保護者に確実に周知し進めることが重要である。前年や例年と学部学科の条件等変更になる場合もあるため、上記文書を丁寧に確認し進める。</p> <p><b>3. 教育実習生の受け入れと大学との連携</b></p> <p>5月下旬～6月3週間11名が実習を行い、法政大学教職担当者とまとめの会を行った。</p> <p><b>4. キャリア形成</b></p> <p>法政大学が策定した長期ビジョン「HOSEI2030」に三付属校教員のキャリア形成の観点から研修の一環としての人事異動について触れている。2022年度の付属校間の異動はなかった。4/1 新任教諭就任式および研修 8/12 付属校教諭就任1・2年目研修</p> <p><b>5. 三付属校合同教研</b></p> <p>3月25日(土)第16回法政大学三付属教研が本校で開催された。第1部「生徒主体の部活動の可能性」をテーマに、佐々木陽平先生(静岡聖光学院)を講師に全体会を持ち、第2部「生徒主体の部活動の可能性(中高)」「中学1年総合授業について(二中高)」「Critical thinking」講座の実践報告について(国際高)分科会で取り組みを紹介し合い、意見交換した。第一部と第①分科会は、法大関係者・保護者・生徒を含む本校関係者も対面参加(第一部のみZoom ミーティング参加)可とした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイエンスカレッジなど興味はあるけれど、部活があると面倒くさがって行かないので残念です。同じような内容を学校行事として行ってくれたらうれしいです。</li> </ul>
--	---	---

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 2023年12月15日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	三者協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月12日(土)三者協議会本番を迎え、生徒会執行部、PTA役員会の有志の方々含め事前の準備をもとに、充実した話し合いとなった。54名が参加(生徒17名、教員17名、保護者15名、ゲスト5名)し、「SNSを扱う上でのリスク対策～SNSの利用に関するルールを校則に加えるべきか?～」をテーマ・論点とし、生徒からの要望は、先生方にはすべての生徒に問題の本質を理解させる指導をお願いしたい。家庭では、SNS上で気をつけるべき事を話す機会を作り、生徒が互いに互いを守り合える環境を作っていただきたい。という意見が出された。</li> <li>中学生徒会執行部員が傍聴し、中学での実施を考える契機となった。</li> <li>3学期に実施された高校の校内における携帯電話の使用に関するルールの試行期間を、2023年1/11～16および1/24～28実施しまとめのアンケートを実施した。</li> <li>今後も生徒を中心に充実した話し合いができるように進めたい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>三者協議会自体が行われている学校は少ないと聞きました。ぜひ継続してほしいです。生徒が様々な立場の方の考えを聞き、自らの考えを深める機会となれば良いと考えます。</li> <li>三者協議会は生徒側からも活発な意見が多く出てきて、逆にあの限られた時間できちんと答えてあげられたかどうか不安になりました。</li> <li>集まるのが時間的に難しいのであれば、ウェブ上でのディスカッション方式も取り入れることができるのではないのでしょうか。</li> <li>非常に有意義な話し合いだったと思います。子供たちが何を問題としているか、やりたい事と、規則との狭間で悩み一番いい落としどころをみんなで探っている感じでしたが、自分たちで考え、大人に意見する姿は素敵でした。</li> </ul>	
2	教育理念	「三者協議会」が法政大学自由を生き抜く実践知大賞「自立した市民賞」を受賞した。高校生徒会執行部が表彰式においてプレゼンを行い、法政大学憲章にある「自由を生き抜く実践知」および「自立した市民」の意味深さを知ることができた。実践を通して理念の浸透を図りたい。				
3	入試広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校一般入試における集団面接を廃止した。</li> <li>合否照会システムの導入</li> </ul> <p>合格発表の形式を、本校HP発表および本校掲示発表から合否照会サイトでの合格発表および各自が合格通知書をダウンロードする形に変更した。これにより入学手続(入学金決済)までがよりスムーズになり、合格手続書類を郵送することで、受験生保護者は入試期間に来校する必要がなくなり、本校の業務負担軽減にもつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ対策として1教室30名とし、大過なく終えることができた。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>業務の軽減になり、保護者の負担もなくなっていくならば一石二鳥ではないかと思えます。</li> <li>「おめでとう」と言って書類を受け取れたこともありがたく、今でも思い出されます。</li> </ul>	
4	地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校の混雑緩和の対応策として時差登校等検討した。現在の対策は通学路で生徒が注意すべきポイントを再確認しマナー向上と注意喚起および指導員の依頼、新学期の教員の立ち番となっている。時差登校の設定、指導員増などが必要である。また定期試験時の下校の混雑について、試験科目数の変更により時差下校を可能とする試みを実施。引き続き調整が必要である。</li> <li>生徒の送迎を控えるよう要請した。</li> </ul> <p>*次年度重点課題</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方が登下校中の生徒を一生懸命指導されているのを時折見かけます。</li> <li>いつもありがとうございます。混雑緩和については、時差登校の設定を具体的にしていけないと生徒は行動に移さないかもしれない。他の学校での取り</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校マナーおよび混雑緩和</li> <li>・自転車通学者の交通ルール・マナー</li> </ul>	<p>組みを知りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験時の科目変更で混雑が緩和されるのはいいと思います。</li> <li>・なかなかクレームが減らないことは残念に思います。保護者から三者協議会の題材を決められるなら登下校のマナーを挙げたいくらいです。地域住民も憧れる生徒になって欲しいです。同時に生徒の送迎も何度注意しても減らないのが残念に思います。</li> </ul>
5	子育て茶話会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインで2回、対面で1回実施し、延べ25名が参加した。</li> <li>・子育て茶話会の充実化やカウンセラー・保健室との連携協力体制は、オンラインも活用し、例年通り構築することができた。</li> </ul>	
6	学食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学施設保全部・食堂業者・本校と連携し、HPへのメニューとアレルギーなどの告知、フェアキャストでの欠席連絡と食数の確定、アンケート実施を行なった。</li> <li>・入試イベントでの営業も好評であった。</li> <li>・スクールランチ・クラスランチをはじめ、保護者・学年会の食堂・購買営業への協力を得ながら、3学期に入って、1月16日(月)から学級閉鎖となるクラスがあっても、スクールランチ・クラスランチも日程を入れ替えるなどして、学年会・保護者の理解・協力も得ながら極力食品ロスも出さないように営業することができた。対策を立て、業者と相談しながら、可能な限り営業をした。また、保護者のアンケートの声なども取り入れながら、より良い形を模索していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールランチはいつもと違うメンバーで食事をする機会となっており、メニューも生徒同士で事前に話題になるなど、コミュニケーションのきっかけにもなっているようです。親も週に1回、弁当作りをお休みでき大変助かっています。</li> <li>・学食がおいしくないと生徒の間で評判です。外部業者殿に委託されているのかと推測しますが、どのような基準で選ばれていて業者の入れ替え等はあるのでしょうか。 →安定的に実施可能な業者の選定に努めています。</li> <li>・保護者会で生徒がどんなクラスランチを食べているのか体験出来たらいいと思う。クラスランチの日はお弁当を作らなくていいので、温かいご飯を提供していただいて本当にありがたいです。</li> </ul>

※その他の意見

- ・おおむねすべての項目において満足いく内容で達成していると思われます。
- ・学校関係者評価5段階か3段階評価が良いと思う。(1. 満足、充実、達成度高い 2. だいたい満足、達成に向かっている 3. …とか)
- ・全体を通して、現状の課題に対しての取り組みが的確にされていた。
- ・PTAのあり方検討・・・ ちょっと表現がきつい様な気がします。